

『令和6年10月15日開催』

企業会計決算審査特別委員会
委員長報告

【令和6年12月定例会】

委員長 船津由徳

先ほど議長から報告がございましたとおり、委員長に不肖私が、副委員長に板橋博美委員がそれぞれ互選されておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、去る9月定例会において当委員会に審査を付託され、閉会中の継続審査となっております議案第148号「令和5年度川口市水道事業会計決算認定について」、議案第149号「令和5年度川口市下水道事業会計決算認定について」及び議案第150号「令和5年度川口市病院事業会計決算認定について」の以上3議案につきまして、10月15日に委員会を開催し、慎重に審査いたしましたので、以下、その審査概要と結果を審査順序に従いご報告申し上げます。

初めに、「病院事業会計決算」を議題といたしましたところ、入院収益が増加しているのにもかかわらず、当年度純損失が増加した理由について、入院収益にかかわり、緩和ケア病棟の稼働状況及び収益について、医業費用の経費にかかわり、未収金回収業務委託の成果について等、質疑応答の後、採決の結果、起立者全員で認定することに決しました。

続きまして、「水道事業会計決算」を議題といたしましたところ、水道管の耐震化率について、給水収益にかかわり、水道料金の収納率について、配水及び給水費にかかわり、漏水対策の実施状況について等、質疑応答の後、討論へと移行し、まず、物価の上昇が続き、市民の暮らしが厳しい状況にあるなかで、命に直結する水道の料金に、逆進性の高い消費税が転嫁されていることから、反対するとの意見。

また、資材価格の高騰や労務単価が上昇するなか、約20億7,000万円の利益を出し、事業を運営していることに加え、水道管の耐震化率が全国平均を大きく上回っていることは、評価に値する。水道料金の収納率についても、最終的には99.8パーセントを超える見込みであり、利用者の負担の公平性が保たれていると考えられることから、今後も独立採算制、受益者負担の原則に基づく、適正な料金体系の下、安全安心な水道水の安定供給と事業推進を期待し、賛成するとの意見がそれぞれ述べられた後、採決の結果、起立者多数で認定することに決しました。

最後に、「下水道事業会計決算」を議題といたしましたところ、市内の下水道普及率について、流域下水道維持管理費負担金にかかわり、算出根拠及び単価の変動見込みについて、管渠建設費にかかわり、災害用マンホールトイレの整

備状況について等、質疑応答の後、採決の結果、起立者全員で認定することに決しました。

以上で報告を終わります。